

地域福祉ワークショップ フォローアップ会 実施報告書

令和5年10月

中央区・中央区社会福祉協議会

【目次】

ワークショップの目的	2
当日の流れ	3
意見交換の結果	3
アンケート結果	7



1 ワークショップの目的

(1)地域福祉ワークショップについて

区では、令和2年3月に「みんなが支えあい、自分らしく暮らせるまち」を基本理念とした「中央区保健医療福祉計画2020」を策定、令和3年3月には中央区社会福祉協議会が「第2期中央区地域福祉活動計画」を策定し、区と社会福祉協議会がより一層連携を強化して「地域共生社会」の構築を目指すこととしたところである。

「みんなが支えあい、自分らしく暮らせるまち」という基本理念にあるように、地域共生社会の実現のためには、行政による取り組みはもちろんのこと、区民が主体となって地域生活課題の解決に取り組む支えあいの地域づくりが重要である。

そこで、区では以下の目的の達成に向け、令和2年度より「地域福祉ワークショップ(令和2年度のみ地域福祉懇談会)」を開催している。

地域福祉ワークショップの目的

1. 中央区保健医療福祉計画 2020 の周知
2. 参加者同士のつながりづくり
3. 参加者が主体となり地域生活課題に取り組む地域づくりの推進

(2)フォローアップ会の開催

これまでの地域福祉ワークショップでは、毎年異なるテーマを設定し活発な意見交換が行われてきたが、いずれも課題の洗い出しや解決策の共有で終了しており、事後アンケートではワークショップ参加後の状況を振り返る・共有する機会が欲しいとの意見が寄せられていた。

そこで、過去の地域福祉ワークショップ参加者を対象とした「フォローアップ会」を試行的に開催し、参加者同士の横のつながりを太くすると共に、目指したい地域の姿、地域とつながるきっかけに関するアイデアの共有を通し、支えあいの地域づくりを後押しすることを目指すこととした。

2 主催

中央区・中央区社会福祉協議会

3 開催日

令和5年10月13日(金) 18:30~20:00

4 参加者数(申込者数)

16名(19名)

京橋地域4名、日本橋地域9名、月島地域3名



中央社協イメージキャラクター
ニジノコ

5 当日の流れ



6 グループワークの進め方

各グループに4名の参加者と、サポーター役として中央区社会福祉協議会職員が加わり、「5年10年後に目指したい地域の姿」「楽しみながらやってみたいこと(つながるきっかけ)」について、意見交換を行った。

グループワークの進め方

- ① 自己紹介をする(5分)
- ② 発表役を決める(5分)
- ③ 個人ワーク<ワークシートに意見や思いを記入する>(5分)
- ④ グループで発表・意見交換(25分)
- ⑤ 全体共有<発表役がグループで話し合ったことを報告>(10分)



7 意見交換の結果

○1グループ

「5年後10年後に目指したい地域の姿」

- マンションの中でつながり、多世代が集まれる場所を作りたい。
- まちの意見を集約できる居場所があると良い。それを企画・実行できる地域を目指したい。
- 古い慣習も活かしながら、新住民の意見も取り入れて、新しいまちの姿を目指したい。
- 父母が自分たちの時間を作る居場所を作りたい。
- 区、社協、住民が壁を壊し、意見を言い合える地域にしたい。

「楽しみながらやってみたいこと(つながるきっかけ)」

- 子育て中の父母がプライベートな時間を持てる場所を作りたい。
- 小規模マンションでの防災訓練、簡単なセミナーなどを楽しみながら行い、つながるきっかけを作れると良い。

〇2グループ

「5年後10年後に目指したい地域の姿」

- みんなが楽しみ、長く住むことができる地域にしたい。
- 目指す地域の姿は、京橋、日本橋、月島よりも、更に細分化された地域となるだろう。
- 子ども、若者、高齢者等、年齢にとらわれず地域活動(町会活動やイベント等)に楽しく参加できるようにしたい。

「楽しみながらやってみたいこと(つながるきっかけ)」

- 地域の拠点、居場所づくりを行いたい。活動場所は、空き家等探せば色々あるのではないかな。
- 現在、民生・児童委員が中心となり立ち上げた地域のサロンが盛況だが、それは参加している家族の意見が反映されているからだろう。子どもの居場所なら子どもの声、高齢者の集まる場所なら高齢者の声を聞き、にぎやかでつながりのある中央区を目指したい。

〇3グループ

「5年後10年後に目指したい地域の姿」

- コロナが落ち着き、地域のイベントが復活してきている。古くからの慣習や新しい考え方を大切にして、多様性の中で様々な価値観が認められる社会を目指したい。
- 様々な価値観の中で、人口の変化に対応できる地域にしたい。

「楽しみながらやってみたいこと(つながるきっかけ)」

- 実践していることは「挨拶」である。
- 全ては挨拶から始まる。挨拶をきっかけに、楽しみながら地域づくりに取り組みたい。

○4グループ

「5年後10年後に目指したい地域の姿」

- みんなが楽しみながら生活できる地域にしたい。
- 企業活動、町会活動が盛んなため、地域の社会資源をうまくマッチングして、地域を盛り上げていきたい。
- キーワードは公園。坂本町公園、黎明橋公園が整備され、公園を活用したイベントが活発に行われている。公園を中心に古くから住んでいる人、新住民、在勤者がつながれるのではないかな。

「楽しみながらやってみたいこと(つながるきっかけ)」

- 2040年度の再開発完了、将来の地域を夢見て楽しみながら活動したい。
- 地域の公園を起点とした活動、女性が元気な地域を目指したい。
- 男性は女性に乘せられた方が、地域活動により盛んに参加できるのではないかな。

○意見交換の共通点👤(中央区社会福祉協議会 片桐地域福祉コーディネーターより)

- 意見交換の内容ではなく、大切なのは皆さんが話し合った過程そのものである。
- 共通していたのは、これからの「地域づくり」「つながりづくり」に向けては、居場所や拠点、公園などの「場所」が大切という点である。物理的な「場所」だけではなく、安心して過ごすことができる「居場所」が必要なかもしれない。
- 楽しみながら行うという点では、「挨拶」が挙がっていたが、相手の名前はわからないが、なんとなく顔を合わせれば挨拶をするという関係があるだけでも、自分の居場所として感じ、安心して生活できる方もいる。
- 一つ一つの小さな取り組みが地域へと広がることで、安心して生活することができる、住んでいてよかったと感じる中央区の実現へとつながるのだろう。

8 ワークショップの様子

○意見交換の様子

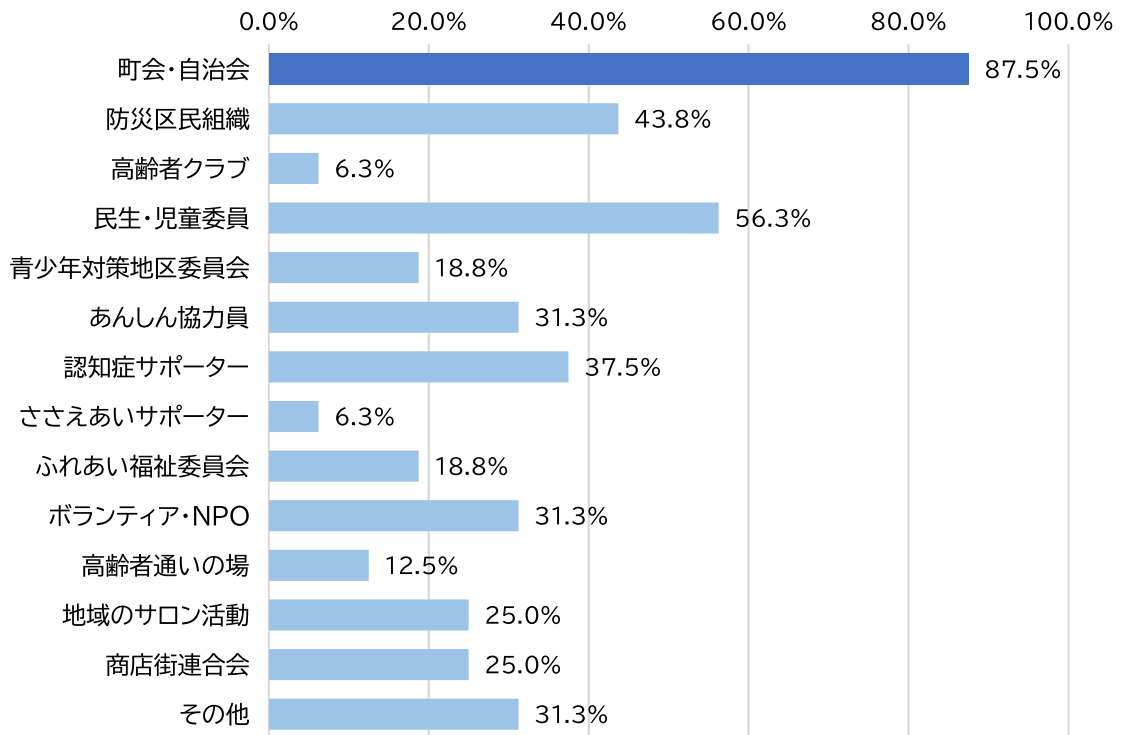


○発表の様子



9. アンケート結果

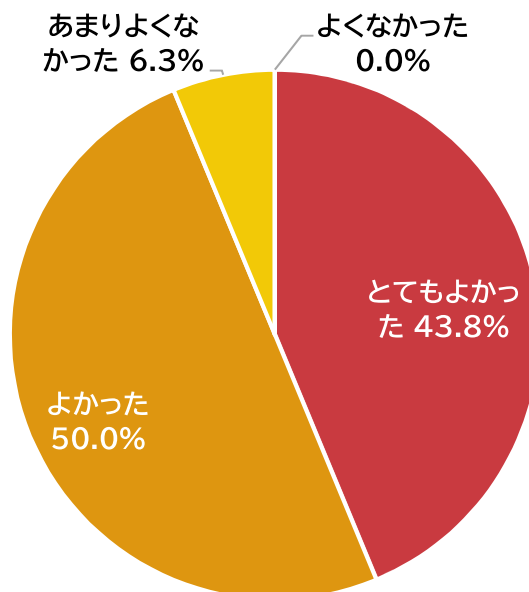
問1 どのような地域活動をしていますか(あてはまるものすべてに○)



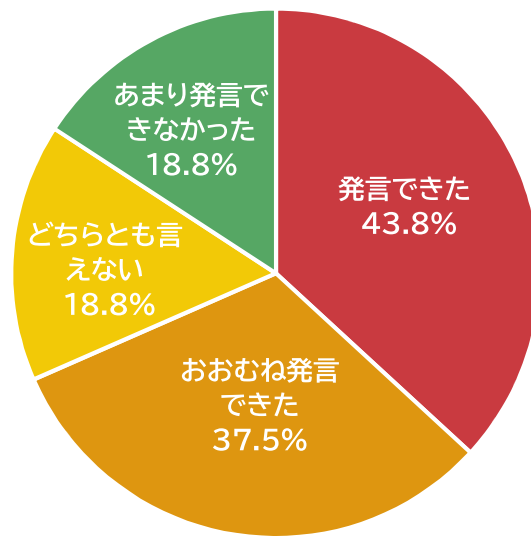
【その他の回答】

消防団、認知症カフェ、ファミリーサポートセンター、虹のサービス、ほがらかサロン、生活支援員
子ども食堂、学校評議委員

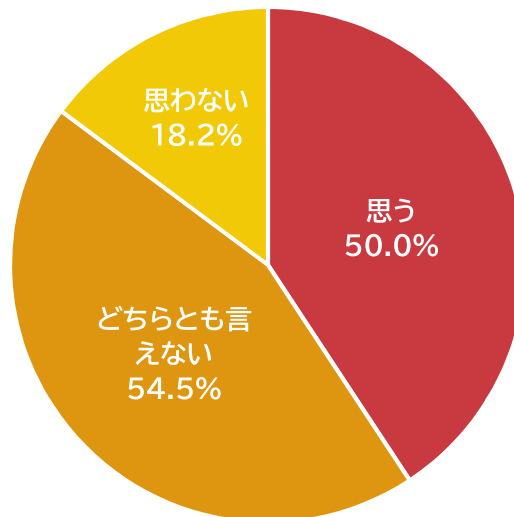
問2 地域福祉ワークショップに参加して、いかがでしたか。



問3 本日のワークショップでは、ご自身の意見を十分に発言できましたか。



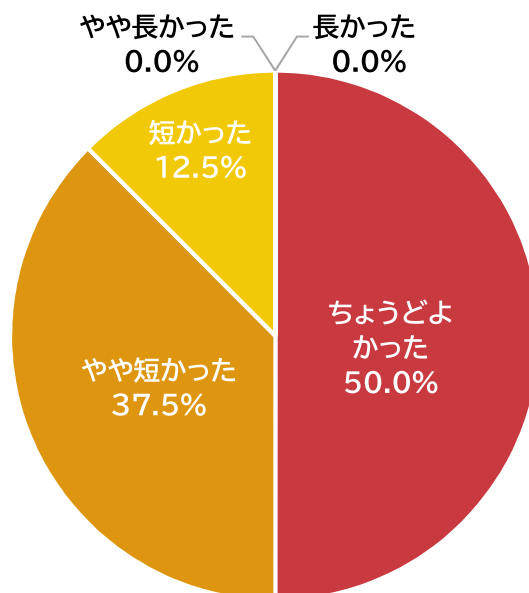
問4 本日の地域福祉ワークショップは、今後のあなたの地域活動に活かせると思いますか。



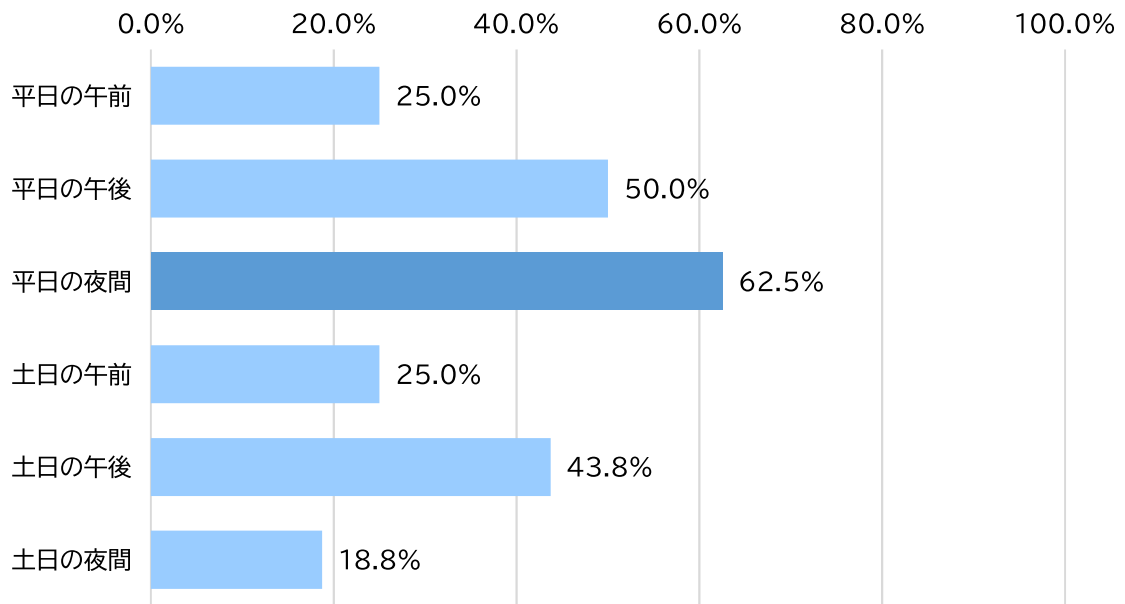
問5 問4の回答についてお伺いします。その回答理由についてお聞かせください。

- 大変ためになりました。ありがとうございます。
- これからのことを考える良い話し合いだと思いました。
- 地域の居場所づくり、サードプレイス作りが重要だと明確になった。
- 自分の知らない地域状況を知ることができ、地域活動への理解を深めることができた。
- 現在仕事をしている町会事務所で町会の行事の準備を行う中、年齢層、男女の別はもとより、働き方についてもたくさんのあり方がある。そうした中から各々が各自できる範囲で気軽に参加できるような下地作りの為に工夫してみたいと思っている。
- 多世代が楽しめる地域にするイベントの開催等。
- 何か実施してみる予定。いろいろな人の意見を確認できた。自分との違いがわかったので。
- 成功事例が参考になり、今後の活動に生かせる。
- 他の地域の声がきこえてよかった。
- 発展的な討議が聞けなかった。
- 地域で何かを推進しようとする、思わぬところが壁となる。その壁をどう乗り越えていくのかが参考になった。

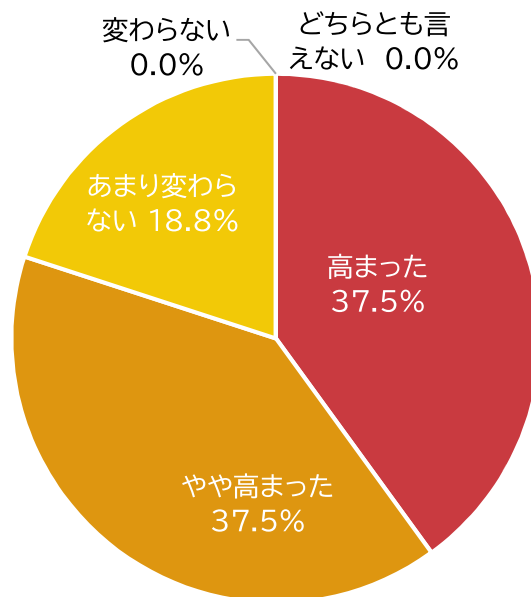
問6 ワークショップの話し合いの時間(長さ)はいかがでしたか。



問7 ワークショップ等に参加する場合、どの時間帯だと参加しやすいですか。



問8 本日参加されたことで中央区の地域福祉に対する関心は高まりましたか。



問9 今後こうしたフォローアップ会で話したい内容、興味のあるテーマがあればお書きください。

- 高齢者の孤独死はとても残念に思います。私はつながりを大切にして、不安な時は誰かにつないでいます。
- 地域の居場所づくりをどうやっていくべきか、運営方法などの講座。
- 子育て支援について。
- 社協、行政との連携、協力。
- 高齢者、若い世代のつながり方。
- 防災をベースにした地域活動。
- 実際の活動のお話が聞きたかった。そこからつながることもできるのではないかと感じた。
- 地域の事を何とかしたいと思っている人が、行政の縦割りによってやる気をなくしている。これをどうしていくか。

問10 本日の地域福祉ワークショップ全体を通じて、ご意見・ご感想がございましたらご自由にお書きください。

- 楽しかったです。自分の考えは子どもっぽいですが、人の話を聞くことが大切だと思います。
- 他の町会の話が聞けて良かったです。
- とてもいい会でした。勉強になりました。
- 居場所づくりの一つとして、本の森ちゅうおうはとてもよい施設になっている。1階のカフェが人の集まる場所になっている。ドッグランでもあれば、ペットのつながりが地域のつながりの一つになるのではないかな。
- ワークショップというコンテンツはすごく良いと思うので、より多くの方に参加いただけると良いと思いました。
- すてっぷ中央で生活支援員(社会貢献型後見人のことも)していますが、各々が地域で生きていること、地域とのつながりが簡単には切れないこと等を自分自身が意識して活動しています。対象となる方は心身に多少なりとも障害のあるケースが多く、地域との関わりについては本人も消極的になりやすい。その点も踏まえた上で、年齢、性別、障がいの有無に関わらないでいつでも集まれる場づくりも必要に感じています。
- グループ内の話し合いの時間があまりにも短すぎる。
- 何か実践してみる予定。
- 皆様のご意見を聞いていると、中央区も捨てたもんじゃ無いと感じます。テーマを少し絞ったことで、話がしやすかった。
- 居場所の提供の情報共有が欲しい。
- 話があたままったところに終了となる。時間ありきが、報告書ありきなのではないかな。

10. さいごに

ワークショップで出されたご意見は、地域カルテ更新の参考資料とするほか、今後社協が予定している身近な地域を単位とした協議の場づくりに向けて活用していく。